

一五  
台  
湾  
方  
面  
部  
隊

-291-

0284

歩兵第三〇四連隊 (敢第一七八六部隊)

年	月	日	略	歴
昭和一九	五	一五		軍令により歩兵第三〇四連隊臨時編成下令
	五	三一		編成完結(台北、台湾歩兵第一連隊において)
	六	五		基隆港出発
	六	五		花蓮港到着
				爾後同地附近の守備に任ず
	二〇	二二五		台北市に移駐
				以後台北附近の警備に任ず
		八一五		停戦
		九二二		終戦
	二二	二二八		内地帰還のため基隆港出帆
	三三	三三		鹿兒島港上陸
	三三	三三		復員完結

第五十師団衛生隊 (蓬第一九七一二部隊)

年 月 日	略 歴
昭和一九一〇 一〇一六	軍令により第五十師団衛生隊臨時編成下令 編成完結(山口、歩兵第四二連隊)
一一二八	門司港出帆
一二一	台湾高雄港上陸
二〇一五	爾後高雄州潮州部新埤庄に駐留、同地附近の警備並に建功及びびかんてんに患者療養 所を開設す
八二八	停 戦 現地召集解除(残留者は第五十師団司令部、屏東陸軍病院へ転属)

2-294-

0286

独立自動車第三〇八中隊 (台湾第一七四六部隊)

年	月	日	略	歴
昭和一九	一	一	一一二四	独立自動車第三〇八中隊編成下令 編成完結(台湾高雄)
			一一二四	屏東市に駐留、第八飛行師団長の指揮下に入る
			一一二五	台湾南部に於ける防衛並に作戦準備に伴ふ輸送業務に従事
			一一二六	天号航空作戦に参加
			一一二六	台北市に移駐台湾北部に於ける防衛並に作戦準備に伴う輸送業務に従事
			一一二八	停戦
			一一二九	終戦
			一一三〇	原隊所属復帰を命ぜられ台湾軍直轄となる
			一一三〇	復員下令
			一一三〇	現地復員完結(基幹人員は歩第三〇四連隊に転属)

独立混成第三十連隊 (盤石第一二八七〇部隊)

年	月	日	略	歴
二〇	一	一		軍令により独立混成第三十連隊臨時編成下令
二〇	一	三一		編成完結(台湾、高雄)
				爾後高雄、寿山地区において陣地構築並に警備に任ず
	八	一五	停	戦
	九	二	終	戦
	九	二二		編成改正により海上挺進基地第二三大隊、第四海上挺進基地隊本部、海上挺進第八戦隊、海上挺進第二十三戦隊、等編合さる
				爾後各個に内地復員完結

第十二師団司令部 (剣第八七一二部隊)

年	月	日	略	歴
昭和一九	一一	二八		軍令により第十二師団司令部編成下令
	一一	二〇		編成完結(牡丹江省東寧県城子溝)
	一一	二三		城子溝出発
	一一	二三		鮮満国境(図們)通過
	一一	二七		釜山着
	一一	一七		釜山港出帆
	一一	一八		門司港入港
	一一	二一		門司港出帆
	二	七		台湾基隆港上陸
	二	九		台南州新豊郡関廟着
	八	一五		爾後台南及び高雄洲の防衛に任ず
	二			内地帰還のため高雄港出帆
	四	一四		名古屋港上陸
	四	一五		復員完結

第四十軍司令部 (陽第二一三〇〇部隊)

昭和二〇	年月日	略	歴
一	一五	軍令により第四十軍司令部編成下令	
		編成完結(台北市)	
		爾後嘉義市に駐留	
五	一	鹿兒島県薩摩半島警備のため内地移駐	
六	一〇	台湾桃園飛行場出発、上海又は廟行鎮飛行	
六	一二	場經由、福岡市雁ノ巣飛行場到着	
六	一七	鹿兒島県宮城町、伊集院町に駐留	
八	一五	停戦	
九	二	終戦	
九		復員完結	

第九師団第一野戦病院 (武第一五八二部隊)

年	月	日	略	歴
昭和一九	六	六	軍令により第九師団第一野病院編成下令	
	六	二二	編成完結(牡丹江、掖河)	
	六	二三	掖河出発	
	六	二七	朝鮮釜山鎮着	
	六	三〇	第二半部釜山港出帆(南嶺丸)	
	七	一	第一半部釜山港出帆(大威丸)	
	七	一二	沖繩県那覇市上陸	
	七	二七	那覇市楚辺国民学校に病院開設	
	七	三一	首里に洞窟構築に着手	
	一〇	一〇	南西空襲で病院を洞窟内及識名園に移動	
	一一	一〇	沖繩陸軍病院との引継完了	
	一一	一二	先発員那覇港出帆台湾に向ふ(彦山丸)	
	一一	二三	先発員基隆港上陸	
二〇	一一	一一	本隊那覇港出帆(相模丸)	



昭和二〇	一	一九	基隆港上陸
	一	二〇	半部は新竹州中壠街実修農業学校到着
	一	二一	半部は竹南部尖山下国民学校に到着夫々病院開設
	三	三	尖山下病院閉鎖、大溪に移駐開設
	八	一五	停戦
	九	二	終戦
	二	二	爾後残務整理に従事
	二	二六	内地帰還のため基隆港出帆
	一	二八	鹿兒島港上陸
	一	二九	復員完結

第二三三兵站病院 (台第二二一三三部隊)

年 月 日	略 歴
昭和二〇 六	軍令により第二三三兵站病院編成下令
七 四	編成完結(台北陸軍病院に於て)
七 五	台北陸軍病院出発、大湖着、同地並に南湖に病院開設主として精神病患者、結核患者の収療に当る
八 一五	停戦
九 五	復員下令
九 一〇	復員完結(残留者は台北陸軍病院に転属)

第十二師団第二野戦病院 (剣第二二二四部隊)

年月日	略歴
昭和一九一一	軍令により第十二師団第二野戦病院編成下令
一一二七	編成完結(会津若松)
一二五	屯営出発
一二二二	比島派遣のため門司港出帆
二〇一一	台湾高尾港寄港
一一一	比島サンフェルナンド上陸のため高雄港出港
一一四	サンフェルナンド上陸、不可能のため再度高雄港へ入港上陸本部を高尾中学校に置きその後本部は宅内子へ移動一部下抗に移駐
八一五	停戦
九二	終戦
九二二	終戦後台南西方の太子廟に集結 高雄陸軍病院に転属一部歩兵第四八連隊に転属



特設警備第五〇五大隊 (台第一三八六二部隊)	
年 月 日	略 歴
昭和二〇 三 二〇	特設警備第五〇五大隊編成完結(台北)
二〇 八 一五	爾後台北市及び周辺の警備に任ず (この大隊は台北高校、台北経済専門学校生徒を以つて編成さる)
九 二	停戦 現地復員完結

年 月 日	略 歴
昭和二〇 一	特設警備第五〇六輜重兵隊編成下令
一 二〇	編成完結（台湾、鳳山）
二 一五	編成改正
六 二〇	爾後鳳山、高雄附近において輸送業務に従事 高雄州旗山郡に移動
八 一五	爾後同地において輸送業務に従事
九 二	停 戦
九 三	終 戦 現地復員完結

特設警備第五〇六輜重兵隊 (台湾第一三八一六部隊)

特設警備第五一〇大隊 (台第一三八七〇部隊)

年 月 日	略 歴
昭和二〇 三 二 〇	特設警備第五一〇大隊編成下令
四 一	編成完結(台中州、彰化市)
八 一 五	爾後台中州大甲庄、大甲公学校に駐屯し大甲山台中州海岸附近の警備に任ず 停 戦
九 二	現地召集解除

4306-

0298

特設警備第五一五大隊 (台第一三八八九部隊)

年 月 日	略 歴
昭和二〇 四 二〇	蓬参動第三〇五号により特設警備第五一五大隊編成完結(台湾、高雄州)
八 一五	爾後高雄州旗山郡に在りて警備並に高砂族(二五〇名)の訓練に従事 停 戦
九 三	現地召集解除(隊員は第五〇師団司令部、屏東陸病等へ転属)

0079

--307--

0299



特設警備第五三七大隊 (灣第一三八七四部隊)

年月日	略歴
昭和二〇 六 二九	軍令陸甲第九六号により特設警備第五三七大隊編成下令
二〇 七 五	編成完結(潮州郡)
	爾後潮州郡打鉄において捜策第五〇連隊長の指揮下に入り陣地構築、食糧増産等に
	従事
二〇 八 一五	停戦
九 九 二	終戦
九 三 三	現地に於て復員完結

特設警備第五三八大隊 (湾第一三八七五部隊)

年 月 日	略 歴
昭和二〇 三 二〇	特設警備第五三八大隊臨時編成(花蓮港市) 警備召集下令(学徒で編成)
四 二二	臨時召集下令
	同日、台湾軍戦闘序列に加えられる
	米崙山陣地構築に参加
五 一〇	台湾全土空襲時防衛に出動
五 二〇	池南兵舎駐屯、洞門地区の警備
八 一五	停戦
九 二	終戦
九 三	現地復員完結

特設警備第五二一中隊 (湾第四五一六部隊)

年 月 日	略 歴
昭和二〇 三 一	特設警備第五二一中隊臨時編成下令
四 一	編成完結(台北)
八 一 五	爾後台北市北部地区の警備に任ず
九 二	停戦
九 三	終戦
九 三	現地召集解除

特設警備第五六〇大隊 (台湾第四五九四部隊)

年月日	略	歴
昭和一九二二	同日	特設警備第五〇五中隊編成下令(台湾歩兵第一連隊)
〇〇	四	編成完結(台北州)
一九〇〇	四	爾後宜蘭市、宜蘭郡、羅東郡、蘇澳郡下に於ける警備に従事
一九〇〇	四	台湾軍は作戦軍となり戦斗序列を命ぜらる
一九〇〇	四	台湾防衛戦斗に参加
一九〇〇	四	編成改正により特設第五〇五中隊復帰下令、特設警備第五〇六大隊編成完結
一九〇〇	四	独混第三三連隊の進駐と共に本部を羅東郡、羅東街に移駐し独混第三三部隊長の指揮下に入り警備に従事
一九〇〇	四	停戦
一九〇〇	四	終戦
一九〇〇	四	現地復員完結(基幹人員は独混第三三連隊に転属)

0080

0303

第五〇二特設警備水上勤務隊 (台湾第一三八四二部隊)

年 月 日	略 歴
昭和二〇 一 二 九	第五〇二特設警備水上勤務隊編成下令 編成完結(台中)
二 一 四	台北州基隆進駐基隆港にて揚塔作業に従事
四 二 二	台北州七星郡内湖庄へ移駐
自 二 〇 〇 六 四 二 〇 三	天号航空作戦に参加
八 一 五	停戦
九 二	終戦
九 三	現地復員完結

第五〇三特設警備水上勤務隊 (台第一三八四三部隊)

年 月 日	略 歴
昭和一九二一 二 一五	第五〇三特設警備水上勤務隊編成完結(高雄)隊長以下十五名
二〇 二 一五	爾後高雄市旗後並に附近部落の台湾青年の臨時召集並に訓練業務に従事 高雄市出発
二 二 一六	基隆港に到着陸軍兵器廠に所屬沖繩方面への兵器弾薬の荷役作業に従事
八 一 一五	停 戦
九 六	現地召集解除(残留者は野戦兵器廠へ転属)

年 月 日	略 歴
昭和二〇 一 一 二〇	第五〇四特設警備自動車隊編成下令
一 三 一	編成完結（台湾、高雄）
八 一 五	爾後高雄地区に在りて軍物資の輸送業務並に同地附近の警備に任ず
九 二	終 戦
九 一 〇	現地復員完結（本島出身者は蓬部隊に転属）

第五〇四特設警備自動車隊（台湾第一三八〇四部隊）

年 月 日	略 歴
昭和二〇 一 一三	軍令により第五〇五特設警備輜重兵隊編成下令 編成完結（台北）
二〇 八 一五	爾後台北州新店庄山中に駐屯し警備並に軍需品の保護輸送に従事 停戦
九 九 二	終戦 現地召集解除

第五〇五特設警備輜重兵隊（台湾第一三八一五部隊）



第五〇九特設警備輜重隊 (台第一三九一九部隊)

年 月 日	略 歴
昭和二〇 一一 一一	軍令により第五〇九特設警備輜重隊編成下令
一一 一一 一一	編成完結(台南州)
八 一 五	爾後台南州嘉義に駐留し兵舎構築及軍需品の輸送業務に従事
九 二 二	停戦
九 八 八	終戦 現地復員完結(基幹人員は輜重第十八連隊に転属)

第五一〇特設警備工兵隊 (台湾第一二八一〇部隊)

年 月 日	略 歴
昭和一九一〇 一〇八	軍令により第五一〇特設警備工兵隊編成下令 編成完結(台中) 爾後教育警備召集等の業務に従事
昭和二〇 一二七	臨時召集下令 台中の陸軍飛行場に於て滑走路建設補修飛行機の偽装等の業務に従事 一部は台中州霧峯地区に移動飛行場建設に従事
八一五	停戦
九二	終戦
九五	復員下令、召集解除

第五一三特設警備輜重兵隊 (台湾第一三八二三部隊)

年 月 日	略 歴
昭和一九 八 一	第五百十三特設警備輜重兵隊編成下令
一九 一〇 一〇	編成完結(台湾、台東)
二〇 二 一五	台東庁卑南山地に陣地を構築
五 一 一六	台東庁大南山地陣地に移駐
五 三 一	台東庁卑南山地陣地に再移動
二〇 八 一五	爾後台東飛行場附近の警備並に軍需品の輸送に従事
二〇 八 二〇	停 戦
二〇 一〇 一〇	台東街に集結、引続き物資の輸送に従事 現地復員完結(基幹人員の内一部は独混一〇二旅司へ転属)